

研究委員会企画シンポジウム

【会 場】 301+302

2016年11月19日（土） 15:30～17:30

治療的アプローチと代替的アプローチの対立

司会者	松田 修	東京学芸大学
話題提供者	奥村 智人	大阪医科大学
話題提供者	近藤 武夫	東京大学
話題提供者	西谷 淳	甲賀市立甲南中部小学校
指定討論者	上野 一彦	東京学芸大学

※文字通訳あり

【企画の趣旨】

LD等の教育や支援は、一人一人の子供の学び方の違いや可能性を正確に把握することから始まる。この点に異論を唱える人はいない。しかし、その後の支援や指導に関する考え方には様々な立場がある。例えば、治療的アプローチは子供の機能を伸ばし、個々の学びを支えることに焦点を当てるのに対して、代替的アプローチは子供の機能をICT活用等によって代替し、子供の学習や社会への参加や適応を支えることに焦点を当てるとなみなされ、両者は対立するといわれることがある。本当にそうだろうか。このシンポジウムでは、わが国を代表する論客にご登壇いただき、各アプローチの概念、理論的背景、目標、方法、対象等を議論する。さらに学校現場の立場からの意見も含めて、LD教育の未来を考えたい。